

本質を追求し、本音で語り、本気で実行、をスローガンに  
“真に勝ち抜く改革”を断行します。

2012年4月1日付で代表取締役社長に就任した柴田光義です。日頃より当社グループをご支援いただいております株主の皆様へ、紙面を借りてご挨拶申し上げます。

去る2011年度は、欧州債務危機をはじめとする世界経済の悪化、原油価格上昇、円高に加え、東日本大震災、タイ洪水と、非常に厳しい事業環境となりました。

加えて当社においては、米国での反トラスト法違反による罰金などもあり、当年度は純損失となり期末配当を見送らざるを得ない結果となり、改めてお詫び申し上げます。

続く2012年度も、自動車やエレクトロニクスなどの市場が回復傾向にあり、当社グループも増収・増益を見込んでいるものの、まだまだ力強さに欠けています。

そこで2012年度は、次期中期経営計画(2013年度～15年度)への架け橋の年と位置づけ、これまで以上にスピード感をもって改革を断行すべく「真に勝ち抜く改革(本質を追求し、本音で語り、本気で実行)」をスタートしま

した。具体的な内容は、今秋にも発表させていただきますが、当社グループがめざすべき方向と重点投資する事業を定め、一方で整理すべき事業は整理し、エネルギーや通信といった社会インフラ、自動車など、成長市場の需要拡大をより大きく取り込むための策を練っています。また、これらの改革を推進するために、社長直轄の組織として「新事業推進室」と「構造改革推進部」を設置しました。

なお、2012年度の配当につきましては、未だ業績が回復途上であるため、中間期末は見送り、期末は3.0円(前年度比0.5円の増配)を予定しております。

社会に不可欠な存在として健全な成長を果たすことで、株主の皆様への信頼を回復し、ご期待にお応えできるよう、グループ社員一同、覚悟をもってこの改革に取り組みます。皆様には引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月

古河電気工業株式会社  
代表取締役社長

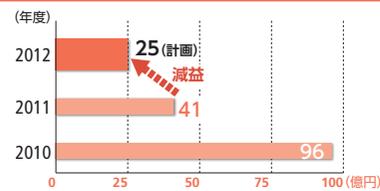
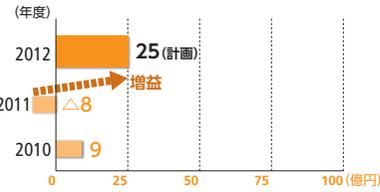
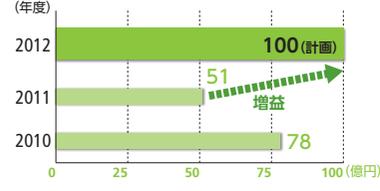
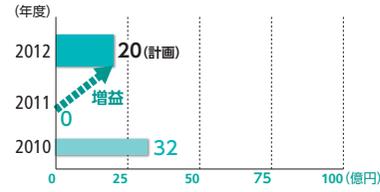
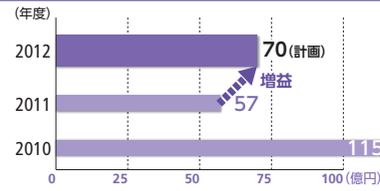
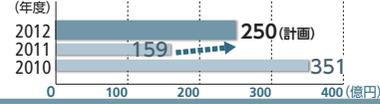
柴田光義

Profile

1953年(昭和28年)東京都生まれ。東京大学工学部で金属素材関連技術を専攻し、1977年に入社。銅線工場の生産技術を皮切りに、半導体レーザーの開発および事業化を経て、知的財産部や横浜研究所長、経営企画室長、金属カンパニー長などを歴任。銅箔関係の海外投資や銅管事業の構造改革など幅広い経験を積み、2012年4月、代表取締役社長に就任。



# 2012年度の事業見込みについて

	営業利益	2012年度の事業環境	施策
<b>情報通信</b> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>光ファイバ・ケーブル</b> 海外は好調が続くものの、国内の需要環境は厳しさが増す</li> <li>● <b>フォトニクス・ネットワーク</b> 次世代高速光通信の新規需要で新型レーザーが増えるものの、タイ洪水の影響が残ることや国内需要が一段落することから、低調に推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>中国で</b> 光ファイバ母材を製造・販売する合弁会社を立上げ(2012年6月)</li> <li>● <b>ロシアで</b> 光ケーブルの新工場を建設(2013年7月)</li> </ul>
<b>エネルギー・産業機材</b> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>エネルギー</b> 国内電力会社向けは減少するものの、海外は好転</li> <li>● <b>産業機材</b> LED液晶TV用反射板は、需要の増加と償却費の減少により好転</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ブラジルで</b> 光ファイバ複合架空地線(OPGW)の新工場を立上げ(2012年10月)</li> <li>● <b>米国で</b> 第2世代高温超電導線材メーカーであるスーパーパワー社が古河電工グループの一員として始動(2012年4月)</li> </ul>
<b>電装・エレクトロニクス</b> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>自動車部品</b> エコカー需要の増加により売上が伸長</li> <li>● <b>エレクトロニクス</b> ガラス基板事業の撤退に加え、巻線やハードディスク用アルミ基板材の回復などにより好転</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>フィリピンで</b> ワイヤーハーネス新工場を立上げ(2013年3月)</li> </ul>
<b>金属</b> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>伸銅品</b> タイ洪水の影響からの脱却や償却費の減少などにより好転</li> <li>● <b>銅箔</b> 自動車向けリチウムイオン電池用銅箔が下期には回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>台湾で</b> 銅箔新工場の立上げ(回路用2012年6月、リチウムイオン電池用同8月)</li> </ul>
<b>軽金属</b> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>アルミ製品</b> 自動車関連やLNG船用厚板、箔地などの需要増に加え、タイ洪水の影響からの脱却、償却費の減少などにより増益</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>タイで</b> アルミニウム板圧延新工場の立上げ(2014年1月)</li> </ul>
<b>連結合計</b>		依然として力強さに欠けるものの、自動車やエレクトロニクスなどの市場が回復傾向にあり、増収・増益を見込んでいます。	
<b>配当(年間)</b>		安定配当を基本としながら、長期的な視野に立って、今後の収益動向を見据えつつ、将来の事業展開を勘案して配当を行うことが基本方針です。 2012年度は未だ業績が回復途上であるため、中間期末は見送り、期末は3.0円を予定しています。	

## NEWS 研究・開発の取り組み

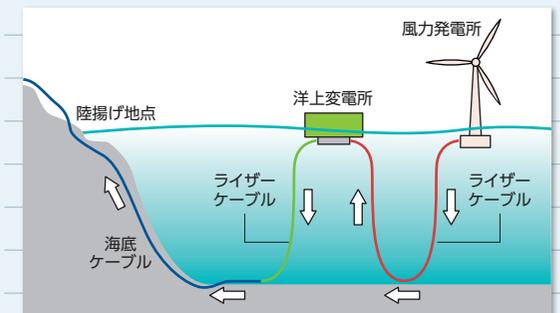
### 世界初となる「浮体式洋上windファーム」の実証研究に参画

エネルギー供給の安定化に向けて、大規模な風力発電所を海上に設置し、発電した電力を陸上へ送る取り組みが世界各地で進んでいます。

日本でも、東日本大震災復興関連の2011年度第3次補正予算で福島県沖「浮体式洋上windファーム実証研究事業」の開始が決まっており、当社もこれに参画します。

先行する欧州では「着床式」が主流ですが、海底に基礎を打ち込む必要があり、日本沿岸のように水深がすぐ深くなる海域では設置コストがかさみます。そこで、本事業では「浮体式」が採用されます。

本事業における当社の役割は、海底ケーブルによる送電システムの構築です。浮体設備の動揺や潮流など、過酷な環境下でのダイナミックな動きに追従する「超高圧ライザーケーブル」を開発し、世界初の浮体式洋上windファームの実現に貢献します。



# 飛躍の時期を迎えた超電導事業

## 世界各国で拡大する超電導需要

超電導現象が発見されてから101年。技術の進化とともに、近年では実用化に向けた動きが加速しています。その市場は、次世代の社会インフラとして期待される電力分野をはじめ、産業や医療などの幅広い分野に広がっており、世界各地で大幅な需要拡大が見込まれています。

## 需要拡大に応える体制を強化

世界的な需要増に対応するため、当社は2012年2月に米国の超電導線材メーカー、スーパーパワー社を買収しました。同社はイットリウム系材料を用いた第2世代高温超電導線材を量産できる世界2社のうちの1社。世界トップクラスの低温超電導に加えて、幅広い応用が期待できる高温超電導をラインアップに加えたことで、世界市場で高い競争力を発揮していきます。



### COLUMN

#### 中国で世界最高電圧の超電導ケーブル実証試験をスタート

当社は中国瀋陽市にある子会社の瀋陽古河電纜有限公司において、世界最高電圧となる275kV超電導ケーブルの長期課電・通電試験を実施します。

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) から受託した「イットリウム系超電導電力機器技術開発プロジェクト」として実施するもので、初期性能を確認後、2012年10月から試験を開始する予定です。

送電インフラが急激に発展する中国での実証試験を通じて、超電導ケーブルに関する技術優位性をアピールし、国際的な競争力を高めてまいります。



275kV超電導ケーブル試験レイアウト

## 工場見学会のご案内



自前の水力発電所

株主通信とともに、工場見学会に関するはがきを同封させていただきました。詳細は下記ならびにはがきをご参照ください。

昨年に引き続き、日光事業所にて好評いただいた工場見学会を開催いたします。特集でも取り上げました超電導の実験や、自前の水力発電所の見学など珍しい体験も用意いたします。秋冷の心地よい季節、ぜひご応募ください。



## 定時株主総会に関するご報告

平成24年6月26日開催の当社第190回定時株主総会の決議の結果につきましては、インターネット上の当社ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。  
 当社ホームページ <http://www.furukawa.co.jp/>

## 株主メモ

- 事業年度の末日：毎年3月31日
- 定時株主総会：毎年6月
- 各基準日：①定時株主総会関係：毎年3月31日  
 ②期末配当金関係：毎年3月31日  
 ③中間配当金関係：毎年9月30日
- 公告方法：電子公告 <http://www.furukawa.co.jp/> (ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載。)

会場/日程

2012年  
10月

8日 (月・祝)

9日 (火)

日光事業所  
(栃木県日光市)

- ※ 応募多数の場合、抽選とさせていただきます。
- ※ 応募された皆様には、9月上旬に抽選結果ならびに詳細をご連絡します。
- ※ 集合場所までの交通費などは、自己負担とさせていただきます。

## カレンダーを抽選でプレゼント

工場見学会に応募いただいた方の中から抽選で500名様に当社オリジナルカレンダーをプレゼントいたします。同封のはがきでご応募ください(12月発送予定)。 ※右の写真は昨年のものです。



差出有効期限：2012年7月31日(火) 消印有効

## 工場見学会とカレンダーに関するお問い合わせ先

株主様  
サポートセンター

0120-676-252

受付時間 9:00~17:00(土日祝除く)

## 株主名簿管理人および特別口座 口座管理機関事務取扱場所

東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

## お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-288-324(平日9:00~17:00)

※住所変更等の事務お手続きは、お取引証券会社などにてお手続きください。

## TOPICS

## タイ洪水により 光部品を千葉で代替生産

2011年10月のタイ洪水で、当社の光部品製造拠点も水没し、製造がストップする事態となりました。

同拠点で製造する「光通信用半導体レーザー」は、大容量光通信を実現するための主要部品であり、スマートフォンやタブレット端末の利用急増にともない、ますます需要が高まっている製品です。

そのため、当社はお客様への供給責任を果たすべく、急遽、千葉事業所にタイの拠点から従業員(延べ276名)を受け入れ、代替生産を開始しました。

タイと日本では気温や湿度が大きく異なることに配慮し、ダウンジャケットの配布や社宅への加湿器の設置、さらには精神面のケアとして、国際通話用の携帯電話の配備などを行いました。

なお、2012年3月以降、タイの拠点も順次製造を再開しています。

当社は今後も情報化社会の発展に貢献すべく、メーカーとしての責任を果たしていきます。



## お問い合わせ先

### 決算・企業情報に関するお問い合わせ

電話 03-3286-3875(古河電気工業株式会社 IR・広報ユニット直通)

### 株式事務に関するお問い合わせ※

電話 0120-288-324(みずほ信託銀行株式会社 証券代行部)

※上記またはお取引証券会社などにお問い合わせください。